

紙つぶて

福井謙一先生にお会いした時、自分の研究の説明をさせていただいたら、叱られた。「細かいことはいいから、自分の研究を一言で話しなさい」と言われた。文章にすると「縦書き一行で」となるだろう。

縦書き一行で自分の仕事を表現できるかが、私の目標となつた。

シカゴ大学では、毎年助教授に応募してきた有能な研究者が来学する。一对一で面接する。その折に、私は「もしあなたが三十年後にノーベル賞をとることになつたら、どんな内容の研究でノーベル賞をいただきますか。一言で言つてください」と聞く。ほとんどの研究者はそこで立ち往生する。そして、きちんと答

やま もと
山本 ひさし
尚

一言で表現

えた人は例外なく素晴らしい成果を挙げてきた人ばかりであった。京大時代の恩師野崎一先生は、高校時代に一時間の授業の内容を、併句一句にまとめておられたそうだ。試験前には、その一句だけを読めば思い出すとか。すごい人がいるものである。

一言で答えるのは難しい。いつも自分の仕事を、少し遠い位置から眺めている人でなければ答えられない。ここでは学問上のさまつな用語は役に立たない。基本的には人間社会に関わりのある言葉を選ばざるを得ない。そして自分の人生や仕事の目標を、少しずつ遠い目線で考えて、いる自分に気づく。これこそが、実は本当に大切な指針と研究の指針になるのだと分かった。